



ねっどわーく



H24. 11. 30 No.54

■3年3組の授業から学んだこと

蜂谷先生、お忙しい中授業を公開いただき本当にありがとうございました。今年度、規定の授業研では最終ということで、プレッシャーも多々あったのではないかと(笑)事後研で詳細については話合いになったので、以下、個人的に思ったことを述べたいと思います。

(あ、3学年の先生方、蜂谷先生もレポートを早めにお願ひします m(_)_m)

①あたたかい雰囲気構築

中田先生、武田先生から、開ロ一番「あたたかい雰囲気」のことが語られました。個人的に、ここって、すごく大事な部分だと思ったので、最初に書きました。というのは、授業研だけで産み出せるもの(もちろん何でもそうですが特に)ではないですよ。つまり、常日頃の教師と子どもの関係、子ども同士の関係が良好であたたかいからこそ、だと思ふのです。学びを深めていく上で、こうした目に見えない雰囲気、環境づくりってやはり大事ななと思ふところですよ。蜂谷先生ならではの、力で押さえつけない・怒鳴らない(たぶん)学級経営にヒントがあるのかもしれない。学びたいところです。

②板書の構造化・可視化・操作化

事後研では、あえて話題になりませんでしたが、カードの方に出ていました。今回、蜂谷先生の司会団が脇の方にずれていて、黒板が見やすくなっていたことに気づかれましたでしょうか。みんなが今何を話しているのかかわかるように黒板をふさがない配慮、来年に向けても続けていきたいところです。

あと、◎と△による操作化ができたこと、3つのこと(色違いの方がユニバーサル的によいと話がありました)の構造化が図られていたことも大事にしたいところです。



今後に向けて(全職員の共通課題)

先の研究推進委員会でも、議題とめあての話題が出ました。今回、蜂谷先生の指導案では、子どもの活動と教師の支援を分け、そこが明確になるように配慮されていました。来年度、指導案作成に向けて整備していきたいところです。

また、今回、教育実習生と絡めたタイムリーな議題が子どもたちから出ていましたが、子どもたちが本気になって取り組む議題は何だろう、あたり、もう一度職員で共通理解をしていかないといけないかなあと思ひました。

教師の計画に子どもがお付き合いする授業ではなく、子どもの計画に教師がお付き合いする授業、その中で支援していく授業にしていきたいものです。